

2007年1月から2017年12月にかけて 当科において 消化管癌（食道、胃、大腸の癌）、 胆膵癌、自己免疫性膵炎、慢性膵炎、IgG4関連硬化性胆管炎と診断 された方へ

—「医用画像における血管および膵胆管径可視化システムの開発」へ

ご協力をお願い—

研究機関名 岡山大学病院
研究機関長 金澤 右

研究責任者	岡山大学病院	消化器内科	助教	杉原雄策
研究分担者	岡山大学病院	消化器・肝臓内科学	教授	岡田裕之
	岡山大学病院	光学医療診療部	准教授	河原祥朗
	岡山大学病院	消化器・肝臓内科学	助教	加藤博也
	岡山大学病院	光学医療診療部	助教	松本和幸

共同研究機関

川崎医療福祉大学	医療技術学部臨床工学科	講師	近藤真史
川崎医療福祉大学	医療技術学部臨床工学科	准教授	茅野功

1. 研究の概要

1) 研究の背景および目的

近年、低侵襲性に優れる内視鏡による診断および治療が広く普及をしています。消化管内視鏡診断や肝胆膵造影 X 線検査では、消化管粘膜表層の血管径や膵管や胆管のその走行異常に基づいて、病変の存在や良性か悪性などの診断をしていますが、その判断は医師による主観的な評価が中心で行われているのが現状です。

一方で、川崎医療福祉大学臨床工学科では近藤真史講師らを中心として、心臓の冠動脈動画像に対する血管径可視化システムを開発しています。このシステムは画像処理により血管径の長短に応じたカラーマッピングを施すもので、関連学会より高い評価を得ているものです。

上述の背景の下、本研究では、消化管内視鏡および肝胆膵 X 線造影検査・MRI 画像で得られる種々の医用画像（消化管癌および胆膵癌や、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、IgG4 関連硬化性胆管炎などはじめとする慢性炎症性疾患）を対象とした径の可視化システムの開発に応用することにしました。さらに、本手法の可視化処理を高速化し、動画によるリアルタイムな内視鏡診断をも実現することを目的としました（図）。

2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

研究成果により血管および膵管、胆管径や狭窄形態の客観的な評価ができる。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2007年1月から2017年12月にかけて当科において消化管癌（食道、胃、大腸の癌）、膵癌、胆管癌、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、IgG4関連硬化性胆管炎と診断された方を対象とします。

2) 研究期間

平成29年7月29日～平成31年12月31日

3) 研究方法

具体的な内容・方法は次のとおりです。

2007年1月から2017年12月にかけて当院で施行した消化器内視鏡画像および肝胆膵X線造影検査およびMRIの画像で画質が十分に評価に耐えうるものを対象とします。患者の氏名などの情報が特定できない状態で川崎医療福祉大学臨床工学科の近藤真史講師に送信し解析を依頼します。また、患者基本情報（年齢、性別、診断名）や病理組織診断名、血液検査結果を本研究に利用します。これらはすべて日常診療ですでに実施された項目であり、患者さん自身にあらたに負担になることはありません。

4) 使用する情報

この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、あなたの氏名などの情報は削除し、匿名化して、あなたをただちに特定できる情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- 1) 患者基本情報：年齢、性別、診断名、
- 2) 上部消化管および大腸内視鏡画像、肝胆膵X線造影検査画像、MRI画像
- 3) 病理組織診断結果
- 4) 血液検査結果

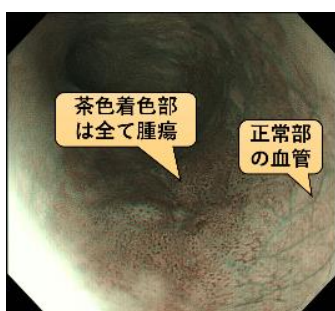
5) 試料・情報の保存、二次利用

データは研究終了後、適宜廃棄させていただきます。カルテから抽出したデータ等は5年間保管後にコンピューターから削除し、また紙面上のデータ等はシュレッダーにて裁断します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、平成30年4月30日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。



<問い合わせ・連絡先>

所属：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 岡山県南西部（笠岡）総合医療講座

職名：助教 氏名：杉原 雄策

連絡先：086-235-7219（平日昼間9時から17時）